

「予算の配分」を決定する会議には、「高校衛看」では、『校長』や『事務責任者』が参加する学校が、6割を越えていた。「大学」や「短大」では、『学部長や教務主任』、『専任教員』、『事務責任者』がこの会議に参加している学校が、5割以上あった。その他の課程では、『校長や学長』、『学部長や教務主任』、『事務責任者』がこの会議に参加している学校が、6割以上あった。

「非常勤講師の選定」を決める会議には、「短大」や「大学」では、『学部長や教務主任』や『専任教員』が参加している学校が、7割以上あった。それ以外の各課程では、『校長や学長』と『学部長や教務主任』がこの会議に参加している学校が、7割以上あった。

「学生の入学の認定」や「学生の卒業の認定」を決める会議には、「短大」や「大学」では、『学部長』や『専任教員』が参加している学校が、9割以上であった。それ以外の各課程では、その他に、『学校長』が参加している学校が9割以上あった。

3. ま と め

以上より、各課程における学校の業務の特徴をまとめると、以下の通りである。

「高校衛看」では、教員の業務分担の原案は校長と教務主任が、年間計画の原案は教務主任が、予算の配分の原案は事務責任者が、非常勤講師の選定や学生の入学・卒業の認定の原案は校長が決める学校が2割以上と多い。また、予算の配分以外の業務を決定する会議には、校長、教務主任、専任教員が出席をして決定している学校が5割以上と多い。

「准看学校」、「進学コース」、「3年課程」、「短大」では、教員の業務分担や年間計画、非常勤講師の選定の原案は教務主任が、予算の配分の原案は事務責任者が、学生の入学・卒業の認定の原案は校長や学長が決める学校が3割以上と多い。また、学校業務の決定会議の出席者は、「高校衛看」とほぼ同じ傾向を示している。しかしながら、「短大」では、業務の原案を委員会で決定する学校も2割以上と多い。

「大学」では、業務の原案を決定するのは委員会が4割以上と多く、業務の決定会議には学部長や専任教員が出席している学校が9割以上とほとんどである。

IX 卒業と就職

1. 卒業生

1991年3月に卒業した生徒の数とその卒業生が入学した当時の生徒の数についてまとめたのが、表55である。

各課程とも、入学時の9割以上の学生が卒業をしていた。

さらに、各学校での卒業率の分布をみたのが、表56である。

看護教育調査

表55 1991年3月の卒業生数と卒業生が入学した当時の人数

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大学	全体
卒業生数	3,380	13,486	10,021	10,763	2,657	473	40,780
入学時の学生数	3,568	14,602	10,780	11,105	2,772	505	43,332
卒業率*	94.7	92.4	93.0	97.0	95.9	93.7	94.2
無回答(学校数)	2	2	13	8	6	1	52
学校総数	64	279	264	300	44	10	961

註) *卒業率 = 卒業生数 ÷ 入学時の学生数 × 100

表56 各学校の卒業率*

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大学	全体
90%未満	4(6.3)	114(40.9)	55(20.8)	20(6.7)	2(4.5)	2(20.0)	197(20.5)
95%未満	16(25.0)	75(26.9)	74(28.0)	74(24.7)	12(27.3)	2(20.0)	253(26.3)
100%未満	17(26.6)	37(13.3)	66(25.0)	88(29.3)	13(29.5)	5(50.0)	226(23.5)
100%	23(35.9)	38(13.6)	41(15.5)	74(24.7)	8(18.2)	0(—)	184(19.1)
100%以上	2(3.1)	9(3.2)	13(4.9)	13(4.3)	3(6.8)	0(—)	40(4.2)
無回答	2(3.1)	6(2.2)	15(5.7)	31(10.3)	6(13.6)	1(10.0)	61(6.3)
学校総数	64(100.0)	279(100.0)	264(100.0)	300(100.0)	44(100.0)	10(100.0)	961(100.0)

註) *卒業率 = 卒業生数 ÷ 入学時の学生数 × 100

各課程とも、卒業率90%以上の学校が6割以上を占めていた。しかしながら、その中でも、卒業率『90%未満』の学校が、「准看学校」では40.9%、「進学コース」や「大学」では2割もあった。

2. 卒業生の就職状況

卒業生の就職状況を、全体的な「卒業生の就職状況」と「病院への就職状況」とからみてみよう。

(1) 卒業生の就職状況

卒業生の就職状況をまとめたのが、表57である。

看護職へ就職の就職率は、「准看学校」で81.9%、「進学コース」で94.1%、「3年課程」で88.5%、「短大」72.6%、「大学」で83.9%の学生が看護職に就職をしていた。また、「高校衛看」では、看護職への就職率が28.5%であった。さらに、看護職への就職率が100%である学校は、「准看学校」で53校(19.0%)、「進学コース」で94校(35.6%)、「3年課程」で48校(16.0%)あった。

「高校衛看」では、卒業生の67.2%が主に看護婦になるための2年課程へ進学をし、進学率が80%以上の学校が、25校(39.1%)もあった。「准看学校」や「短大」でも、2割以上の学生が進学をしているが、進学率が80%以上の学校は、「准看学校」13校(4.7%)のみであった。ほとんどの学生が進学したり、看護職以外へ就職したりなどしているために、看護職に誰も就職していない学校が、「高校衛看」で4校(6.3%)、「准看学校」で2校(0.7%)あった。

「高校衛看」や「准看学校」を除いた各課程では、『病院』に就職している学生の割合が7割以上あった。

表57 1991年3月の卒業生の就職状況（延べ数）

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大 学	全 体
病 院 ¹⁾	846 (25.0)	7,241 (53.7)	8,950 (89.3)	9,305 (86.5)	1,904 (71.7)	329 (69.6)	28,575 (70.1)
診 療 所 ¹⁾	107 (3.2)	3,377 (25.0)	427 (4.3)	34 (0.3)	10 (0.4)	2 (0.4)	3,957 (9.7)
老人保健施設 ¹⁾	2 (0.1)	32 (0.2)	14 (0.1)	1 (0.0)	0 (—)	1 (0.2)	50 (0.1)
学校・養護教員 ¹⁾	0 (—)	0 (—)	3 (0.0)	0 (—)	2 (0.1)	15 (3.2)	20 (0.0)
市 町 村 ¹⁾	0 (—)	2 (0.0)	31 (0.3)	71 (0.7)	4 (0.2)	28 (5.9)	136 (0.3)
保 健 所 ¹⁾	1 (0.0)	0 (—)	3 (0.0)	1 (0.0)	0 (—)	14 (3.0)	19 (0.0)
福 祉 関 係 ¹⁾	1 (0.0)	9 (0.1)	22 (0.2)	35 (0.3)	1 (0.0)	0 (—)	68 (0.2)
その他の看護職としての就業 ¹⁾	5 (0.1)	384 (2.8)	63 (0.6)	79 (0.7)	12 (0.5)	8 (1.7)	551 (1.4)
進 学 ²⁾	2,271 (67.2)	3,159 (23.4)	244 (2.4)	1,024 (9.5)	674 (25.4)	30 (6.3)	7,402 (18.2)
そ の 他	167 (4.9)	292 (2.2)	210 (2.1)	126 (1.2)	61 (2.3)	47 (9.9)	903 (2.2)
卒業生の総人数 ²⁾	3,380 (100.0)	13,486 (100.0)	10,021 (100.0)	10,763 (100.0)	2,657 (100.0)	473 (100.0)	40,780 (100.0)
無回答(学校数)	2	8	17	32	6	1	66
学 校 総 数	64	279	264	300	44	10	961

註) 1) 「病院」から「その他の看護職としての就業」までが、看護職としての就業。

2) 就職して「進学」する場合があるため、「卒業生の総人数」と「病院」から「その他」までの合計があわない場合がある。

(2) 病院への就職状況

卒業生の病院への就職状況をまとめたのが、表58である。

表58 病院への就職

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大 学	全 体
精 神 病 院	32 (0.9)	666 (4.9)	432 (4.5)	133 (1.2)	9 (0.4)	5 (0.6)	1,277 (3.1)
老 人 病 院	26 (0.8)	197 (1.5)	139 (1.4)	18 (0.2)	7 (0.3)	0 (—)	387 (0.9)
総 合 病 院	312 (9.2)	1,119 (8.3)	4,773 (47.6)	7,399 (68.7)	1,629 (61.3)	320 (67.7)	15,522 (38.1)
そ の 他 の 病 院	341 (10.1)	3,380 (25.1)	2,506 (25.0)	741 (6.9)	126 (4.7)	4 (0.8)	7,098 (17.4)
実 習 病 院	50 (1.5)	1,685 (12.5)	2,652 (26.5)	5,211 (48.4)	1,026 (38.6)	164 (34.7)	10,788 (26.5)
実習病院以外の病院	796 (23.6)	5,556 (41.2)	6,298 (62.8)	4,094 (38.0)	878 (33.0)	165 (34.9)	17,787 (43.6)
病院へ就職した総人数	846 (25.0)	7,241 (53.7)	8,950 (89.3)	9,305 (86.5)	1,904 (71.7)	329 (69.6)	28,575 (70.1)
卒業生の総人数	3,380 (100.0)	13,486 (100.0)	10,021 (100.0)	10,763 (100.0)	2,657 (100.0)	473 (100.0)	40,780 (100.0)

看護教育調査

「高校衛看」と「准看学校」を除いた各課程では、病院の中では『総合病院』へ就職している学生の割合が4割以上で一番高かった。「高校衛看」と「准看学校」では、『その他の病院』へ就職している学生の割合が1割以上と高かった。

『精神病院』へ就職している学生が多いのは、「准看学校」と「進学コース」であり、就職率は4.5～4.9%程度だが、『精神病院』へ就職した学生の86.0%を占めた。この傾向は、『老人病院』や『その他の病院』においても同様であった。

3. ま と め

以上より、各課程における卒業と就職の特徴をまとめると、以下の通りである。

「高校衛看」では、入学した学生が一人の退学者もなく卒業する学校が、39.1%ある。進学する学生が67.2%と各課程の中で一番多く、准看護婦や准看護師として就職した学生は28.5%と一番少ない。

「准看学校」では、入学した学生のうち92.4%しか卒業できないし、入学した学生のうち10%以上が卒業できない学校が40.9%もあり、各課程の中で卒業率が一番悪い。診療所へ就職した学生は25.0%と各課程の中で一番多い。また、就職した病院の内訳をみると、精神病院や老人病院への就職した学生がそれぞれ4.9%、1.5%で各課程の中で一番多い。

「進学コース」では、病院への就職した学生が89.3%おり、各課程の中で一番多い。就職した病院の内訳をみると、精神病院や老人病院へ就職した学生の割合はそれぞれ4.5%、1.4%で、「准看学校」とほぼ同じである。

「3年課程」では、入学した学生のうち97.0%が卒業をしており、卒業率は各課程の中で一番高い。また、病院へ就職した学生が86.5%で、進学する学生も9.5%いる。

「短大」では、病院へ就職した学生は71.7%で、進学する学生は25.4%もいる。

「大学」では、病院へ就職した学生は69.6%で、看護職へは83.9%の学生が就職をしている。

X 学校の財政

1. 収 入

1990年度の収入の結果をまとめたのが、表59である。

「3年課程」と「進学コース」を除く各課程では、収入合計に占める『学生納付金』の割合が50%を越えており、収入の中では一番高い割合であった。「進学コース」では、収入合計に占める『学生納付金』の割合は35.1%であったが、収入の中では一番高い割合であった。「3年課程」課程では、収入合計に占める『その他』の割合が41.7%と、収入の中では一番高い割合であり、収入合計に占める『学生